

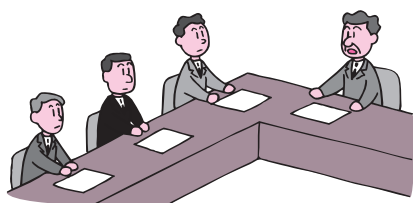
有明広域行政事務組合

第1回定例会報告

広域議員 杉本和彰

議案数7でありわが町に関することを中心に報告します。負担金条例の一部を改正する条例の制定についてでありますが、平成17年度合併しております玉名市、和水町にとりましては、均等割が少なくなりますので負担金が減少します。猶予期間は21年度とし、平成23年度から完全実施となります。ちなみに平成22年度は現行負担金額から改正負担金額を減じた額の2分の1の額を改正負担金額に加えた額となります。旧第1・第2清掃センター解体ストックヤード整備事業です。環境省の交付金事業であり工事関係業務委託並びに解体工事及びストックヤード整備事業であり2ヶ年の継続事業にて実施されるものであり2ヶ年で約3億6千5百万円です。

次に消防庁舎ですが、耐震調査の未実施であります。和水分署等6施設の耐震検査が実施されます。和水三加和分署水槽付消防ポンプ自動車更新整備ですが、平成4年に配備した車両の老朽化に伴うものであり約4千万円です。消防の再編計画ですが、県内を4ブロックに再編し県北は有明・鹿本・菊池・阿蘇を合併するものです。



特集

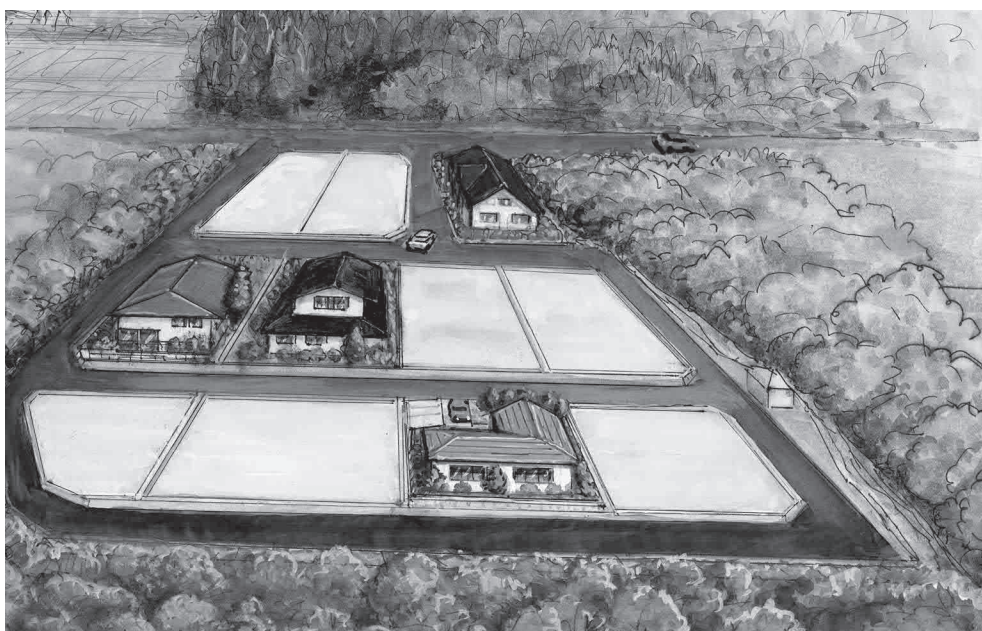
平野の分譲団地 8月から募集予定！

和水町では『人口減少に歯止めをかけたい』と期待している分譲団地として、現在肥後元気村あばかん家の下に整備中の『グリーンビレッジ平野』の造成工事が完成。

分譲宅地数は11区画で、1区画約百坪となっている。

宅地造成事業費は13,237千円。

今後は、上水道の整備と宅造地付帯工事が6月に完了予定となっており、引き続き7月中に地盤強度調査等を終え8月に販売開始予定となっている。詳細は、役場総務課企画室まで。



8月販売開始予定の『グリーンビレッジ平野』のイメージ図

ズバリ聞きます！

3月議会・7人が一般質問



小山 暁議員

行財政改革を問う！

問 行財政改革を着実に進めていくための改革の共通理念と基本方針について。

答 (町長) 次の4点の共通認識のもと行財政改革を進める。
1点目は、最小限の費用で最大の効果を発揮し住民の福祉向上に結びつける。2点目は、役場職員は行政職員として住民との信頼関係を旨とし、行政本来の目的を達すること。3点目は、行政は税の有効性を常に点検するとともに、説明責任と情報公開に努め、行政と住民が一体となったまちづくりを行うこと。4点目は、行政は現状の事務事業を本来の目的である受益と負担の適正化と行政の関与の必要性を見直すことである。

問 合併以来、職員数の削減や町長等の給与・旅費及び各種手当等の見直しが実施されてきたが、過去3ヶ年の財政効果額又は、見込み額は総額でいくら

になるのか。

答 (町長) 合併後の職員採用は、退職者の3分の1に控えている。その結果、平成20年4月1日現在で23人減の272人の職員数となっている。

答 (総務課長) 平成17年度の一般・病院・特老3会計の人件費合計は19億366万8千円だったのが、平成19年度では17億1,161万5千円となっており、1億9,205万3千円の節減効果が出ている。

町内企業の雇用実態は？

問 100年に一度と言われる経済不況の中で、生産体制の見直し等深刻な雇用問題を引き起こしているが、本町内企業の実態はどうなっているのか。

答 (町長) 3月2日に、和水平町企業懇話会会員18社を対象にアンケート調査を実施した結果、17社から回答があった。その結果、17社の社員総数は2千192名で、昨年10月から今年の2月までの退職者数は、正規社員25名でそのほとんどが定年退職者である。なお、派遣社員については、54名が契約満了による解雇減となっており、途中解雇は1件もない。パートその他については、14名

が雇用減となっている。

問 今後町として、どのような対応をしていくつもりか。

答 (町長) 不況を乗り越えるための緊急セミナーや個別相談会等の情報提供を図っていく。

江田船山古墳一帯の名称統一を

問 平成20年9月30日に開催された『万世の都運営委員会』で菊水史談会より、周辺一帯の名称を『江田船山古墳公園』としたらどうかという建白書が提出されたと思うが、町はその後どのような検討をしてきたのか。

答 (町長) 現時点では、結論に至っていない。21年度では、観光によるまちづくりを模索する会議をもちたいと考えており、その中で名称統一の件もしっかりと検討したい。

農業の活性化対策について

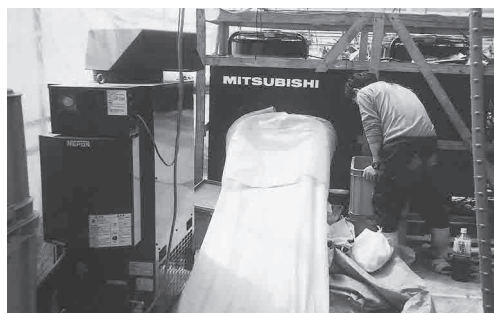
問 『食料・農業・農村基本計画』の見直しだが、国の諮問機関で始まっているが、町長は、生産調整廃止を視野に入れた今回の見直し案をどのように受け止めているのか。

答 (町長) 減反政策は国策であり、町単独ではどうすること

もできず、現時点では見守っていくしかない。

問 安定した農業生産の確保と安定した所得が得られるよう各農家では農産品づくりに積極的に取り組んでおられるが、現在ナス農家で試験的に炭酸ガス供給光合成促進機の導入によって、農産物の増収や品質向上、生育促進に向けて取り組みが始まっているが、その成果が実証されるならば、農業活性化対策として補助する考えはないか。

答 (町長) まだ実験段階と聞いているが、それでも球太りがよく、収穫面でも1割の増が見込めるようで、花から収穫までの期間も2・3日早いようである。今後、成果が上がるようであれば支援していきたい。



ナス農家で実験中の炭酸ガス供給光合成促進機設置状況